

帰還困難区域の汚染実態調査

事故直後に屋内侵入した空気中のセシウム濃度の推定

2016年11月23日

フクロウの会/放射能測定プロジェクト 青木一政

はじめに

- 政府・福島県は避難指定解除、自主避難者への住宅支援打ち切り、農業者への賠償の打ち切りなど、被害者の実情・汚染の実態を無視した一方的な事故終息策を進めている。
- 2016年8月、政府は今後5年間で帰還困難区域の避難指示解除を目指す「復興拠点」整備方針を示した。
- これらの背景にはオリンピックを「復興五輪」と位置づけ、原発事故を「無かったこと」にして再稼働と原発推進・原発輸出を進めようとする狙いがある。
- 原発事故被害者の困窮と環境汚染の現実は置き去りになっている。原発事故による環境影響と生活環境の汚染実態を明らかにしすることが重要な課題となっている。

今回の調査の概要

1. 調査の目的

帰還困難区域である浪江町津島地区の家屋内外の汚染状況を調査する。
家屋内のホコリ等のセシウム量から事故直後に屋内へ侵入した空気中のセシウム濃度を推定する。

2. 調査日時と調査場所

2016年10月 福島県双葉郡浪江町津島K氏宅

3. 調査実施者

Kさん(家屋保有者、現在は関西方面に避難中)

ちくりん舎 浜田和則

ふくしまモニタリングプロジェクト 小澤洋一

風下の会 深田和秀

フクロウの会 青木一政

4. 調査に使用した機器

- ・ガンマ線サーベイメータ TCS-172b(日立アロカ製)
- ・GM管式サーベイメータ TGS-146b(日立アロカ製)
- ・ゲルマニウム半導体検出器 高純度ゲルマニウムGCD50190(BSI社製)

浪江町津島(帰還困難区域)の位置



浪江町津島周辺の空間線量率

赤字木柵平馬場牧場付近
4.34 μ Sv/h(地上1m)
3.51 μ Sv/h(地上1cm)



大柿ダムまんまや前
モニタリングポスト
5.98 μ Sv/h(地上1m)

大柿ダムまんまや前
黒い物質
11.5 μ Sv/h(地上1m)
30 μ Sv/h以上(地上1cm)



浪江町津島K氏宅周辺の空間線量率

櫛平B氏宅入口
4.77 μ Sv/h(地上1m)
9.26 μ Sv/h(地上1cm)
土壌 151,000Bq/kg



K氏宅*庭イトヒバの木の根元

1.65 μ Sv/h以上(地上1m)
2.78 μ Sv/h(地上1cm)
土壌 44,000Bq/kg

※K氏宅は国によるモデル除染を実施済み(2011年12月～12年2月)

浪江町津島K氏宅周辺の見取り図

